

個別課題:「生活のしやすさに関する質問票」でスクリーニングをした患者数
(令和元年7月1日～12月末日)

施設名:	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
49 日本生命病院	<p>「生活のしやすさに関する質問票」でスクリーニングをした患者数が60件/6ヶ月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診断時から患者の苦痛について医療従事者が行うスクリーニングシステムを周知していく。 ・緩和ケアマニュアルの見直しを行う ・ホームページや病院広報誌、掲示物などを活用し、広報の充実をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は行えていないが、すべてのがんと診断された患者に「生活のしやすさに関する質問票」でスクリーニングが行えていないので、行うためのシステムを構築していく ・緩和ケアマニュアルの更新を行う ・緩和ケアチームの案内掲示をわかりやすく修正を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活のしやすさに関する質問票」によるスクリーニングは、入院患者、外来患者(外来化学療法室)患者を対象に開始。スクリーニングは定着しつつあるが、スクリーニングをする、そのものだけになり、患者の困りに対応ができていない現状があり、フローの各コンサルテーションには至っていない。 ・緩和ケアマニュアルは、「痛みのマネジメント」を新薬の追加や疼痛アセスメントなどを追記しました。また電子カルテに掲載分も更新しどの職種もアクセスしやすいようにした。スクリーニングについて追記していない。 ・患者、ご家族にむけて緩和ケアチームの案内を修正し見やすいように掲示を外来、病棟に行った。 ・2019年5月～10月 「生活のしやすさに関する質問票」でスクリーニングを行った患者は、390名であった。緩和ケアチームへ紹介されたのは、スクリーニングでチェックされ専門チーム介入希望をされた22名のうち17名であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアマニュアルへ患者の苦痛を拾い上げ、ケアにつながるしくみとしての苦痛スクリーニングについて掲載をする。 ・緩和ケアリンクナースのメンバーより、スタッフへ目的を伝え正しくスクリーニングを実施し、患者のケアにつなげる。限られた時間しかない外来において実施することが現在できていない。外来スタッフと方法を見直ししていく。